



ART × 下水道 ～アートシンキングによる新たな社会的価値の創造～

日常に溶け込み、当たり前となってしまった「下水道」…でも、待って！！

先人の知恵によって、これまで何十年もかけて創り上げられた『下水道』は、劇的に変わりつつある社会に、そして、成熟した私たちの生活にこれからも答え続けてくれるのでしょうか。時代によって変わりゆく生活には、それぞれ適した新しい下水道の「カタチ」があるはず。

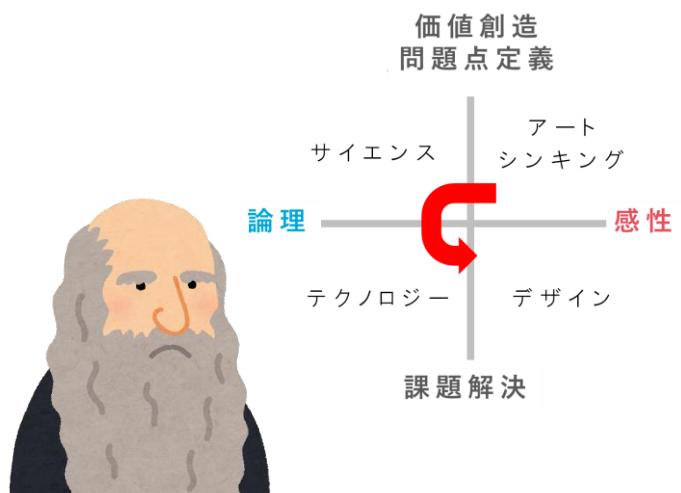
当社は、全く異なる分野との『アートシンキング』を通して、新たな価値を創造するコンサルタントを目指します。

ART × 下水道について

アートシンキングとは、“社会に新たな価値を創造するため、右脳（感性）と左脳（論理）を融合させ、既成概念に捉われず、創造力をもって感性豊かに考えること”と定義しています。

芸術、また建築にも精通していたレオナルド・ダ・ヴィンチの生きたルネッサンス期は「0」から「1」が生まれる創造性溢れる時代でした。これがアートシンキングそのものであったと捉えています。

現代のダ・ヴィンチとまでは言いませんが、下水道にアートシンキングを取り入れようとする取組、私たちはこれを「アート下水道」と呼んでいます。



今までの活動① 下水道展'19横浜 日水コンブース

01

参加型イベントによる
ジブンゴト化



下水道展'19横浜のブースのコンセプトは「あなたと新たな下水道の未来を創る」でした。「技術」に加え「人」に焦点をあてた技術パネル、そして異彩を放つ「アート下水道」の文字。過渡期を迎えた下水道事業に取り組んでいく私たちは固定観念にとらわれない、自由な発想が必要と考えました。これまで軸足を置いてきた「技術」をより活かすため、感性を取り戻そうと掲げたキーワードです。開場後、多くの反響があり、アート下水道の説明員が対応に追われるといった嬉しい悲鳴もありました。

ブースでは、中心に据えられたアクリルキューブを利用した来場者参加型イベントを開催しました。社内職員や来場者には、創りたい下水道の未来についてアクリルキューブに直接思いを書いてもらい、それを会場で共有しました。来場者は途切れることなく、大盛況のうちに最終日を迎えることができました。

その結果、嬉しいことに出展者表彰(4小間以上部門)優秀賞を受賞、対外的にも評価して頂きました。

今までの活動② 汚泥白衣(女子美術大学との協業)

アート下水道の取組に共感してくれたのが、“女子美術大学”です。取組に賛同して集まってくれた美大生に下水道を体感してもらうため、横浜市の協力を得て管路内・北部水再生センター・汚泥資源化センターを見学しました。一方我々は、美大生の作品の創り方(感性)を体感するためアトリエを訪問し、彼女たちには感性を説明できる論理が備わっていることに気がつきました。

意見交換を進める中で、ある学生は、下水道汚泥の焼却灰を染料にできるのではないかと考えました。辿り着いた生地が白衣であり、下水道従事者を“水のお医者さん”に見立てた学生の発想によるものでした。

そして生まれた「汚泥白衣」は、循環をテーマにした絵画と共に下水道展’19 の日水コンブースに展示されました。下水道資源がアパレル業界に関わる可能性を見いだせたことは、まさに新たな下水道の価値の発見でした。

この取組は、国土交通大臣賞「循環のみち下水道賞」の広報・教育部門にて、女子美術大学との協業による受賞を果たしました。

ART × 下水道の今後

アート下水道を通じた異分野交流は、大きな刺激となりました。下水道の循環から新しい人の環・新しい価値が生まれる様を体現できた思いです。もし汚泥白衣が製品化されれば従来型の広報にはない波及効果が期待できます。

イノベーションは、想像したことのない分野の人々が集う、アートシンキングの場で起きるのではないでしょうか。今回の取組から“〇〇 × 下水道”には多くの可能性があると確信しました。下水道のまだ見ぬ魅力を掘り出すため、これからも好奇心をもってチャレンジを進めます。

新たな価値を創造し、社会に、世の中に驚きと感動を与えるように…。

実績

受賞年度	表彰名	表彰対象
2019	下水道展’19横浜 出展者表彰【4小間以上部門】優秀賞	下水道展’19横浜 日水コンブース
2020	国土交通大臣賞「循環のみち下水道賞」	汚泥白衣(女子美術大学との協業)

宜しければコチラも ▶

